

横尾議員 移住定住施策や少子化対策の取組について伺います。今年の小学校の入学生は15人でした。少子化が進んでいるのを実感し、同時に対策を立てなければならないと思いました。子どもや移住定住人口を増やしていかなければ牟岐町の将来が不安です。そこで提案です。子育て世代に対しては出産祝金、移住定住者に対しては定住準備金等の助成制度を設けてみてはどうでしょうか。以前、平成24年9月定例議会に移住交流センターの施策状況はの質問に、町長が移住交流センターは機能しておらず、もっと踏み込んだ施策をする必要があると考えています。例えば、賃貸する場合の空き家の改修費助成や空き家、空き地の管理条例の制定、一定の良質な空き家の確保等、また、問い合わせがあればすぐに紹介できるシステムの構築が必要であると考えています。との答弁をいただきました。今でも考え中なののでしょうか。人口増が期待できるこれらの施策は重点課題として整備し、運用していかなければならないと考えます。つぎに千年サンゴの日を制定してはどうかの提案です。調べますと、3月5日はサンゴの日とされています。ちなみに由来は語呂合わせで、制定年は1996年、制定団体は世界自然保護基金という団体です。観光資源である千年サンゴは、海に潜らないと見られません。どうしても気軽にはいきません。町が参加している千年サンゴと活きるまちづくり協議会では、保全活動やフォトコンテスト、千年サンゴのPR等の活動をしていただいています。この協議会活動で千年サンゴのロゴや名称について商標登録をとっています。町としても千年サンゴの日を制定し、町発行の刊行物やチラシ等にも千年サンゴのロゴや名称を使ってPRをしていくのはどうでしょうか。以上、伺います。

杣富議長 福井町長。

福井町長 横尾議員のご質問にお答えいたします。議員もおっしゃったように移住定住対策、つまり過疎化対策ですね。それから少子高齢化対策というのは、これは本当に今の日本の最大の懸案事項だと言っても過言ではないと思います。過疎化対策につきましてはこれまでも何十年にも亘って日本全国、徳島県の市町村課の担当課職員が本当に考えて、考えて、考えてきたけども、本当に難しい課題だというふうに言われていたのを思い出しました。それで議員ご質問の移住定住対策と少子化対策の取り組みについてということでございますけども、人間がある町、ある土地を住まいとして選択する理由は、その町の自然、景観、産業、人間など移住したい人の感性や価値観、人間性、趣味、経済状況などにより違いがあると思います。今、徳島県で最も移住者の多いと言われる神山町では、芸術家を中心とした人々の集積と、心休まる自然が好かれるのであろう

し、上勝町では、葉っぱ産業を代表とする過疎地で新しい価値を創造する取り組みに共感する人々が移り住んでいるだろうと思います。これまで牟岐町でも、あまり多くはありませんが、太平洋の景観や海を愛する人々が別荘を求めて季節的に居住しているところがございます。一方、現在の団塊の世代や一部の若者は、つぎの棲家を求めて、あるいは、人間らしく生きられる土地を求めて、住みたい町を探しているとも言われています。これらの人々に定住してもらうために、農地付き住宅を賃貸している市町村もございますが、これは財源のない市町村には難しい対策で、牟岐町では、できる限り魅力のある町や自然を創造していくしかないと考えております。そのための取り組みの一つが出羽島の重伝建の指定であり、出羽島の昔の美しい町並みを取り戻し、牟岐町の出身者にできるだけ帰って来て欲しいと思っております。また、平成23年度の空き家調査以降、進んでおりませんが、空き家の有効活用が重要な施策だと考えております。何から何まで活性化センターと申しますが、ここを核として空き家の有効活用の取り組みを開始していきたいと考えております。つぎに少子化対策でございますが、現在は1人でも多くの赤ちゃんを産んでもらうため、出産祝金として、第1子3万円、2人以降5万円を支給しております。ただ、少子化は本町の場合、基本的には過疎化と晩婚化が大きな原因であり、都会の場合よりもより問題は深刻であると考えております。従いまして、今後は、過疎化対策としては、以前、再生会議の取りまとめとしてお配りいたしましたように、事業者の支援、保養と健康の町の取り組み、空き家対策、一次産業の再生などがございますが、どれも多くの方のご協力とご尽力が必要となりますし、晩婚化対策といたしましては、牟岐町見合いの会の積極的な活動の再開をお願いするしかございません。徳島市や石井町でも、見合いの会の活動が活発になりつつありますので、今後、アンテナを高くして、その機会作りをしてまいりたいと考えております。つぎに千年サンゴの日の制定についてでございますが、牟岐町の大島湾内に眠る千年サンゴは、推定樹齢約1,750年、高さが9.5m、周長10mという、国内に例を見ない、また、国外でも殆ど例がないと言われるコブハマサンゴの木でございます。徳島県もその貴重性に目を付けられ、以前より南部総合県民局の方が保全のご支援をしていただくとともに平成23年より千年サンゴと生きる町づくり協議会を立ち上げ、その保存にご尽力をいただいているところがございます。しかしながら、その千年サンゴは、全国的に知る人ぞ知る貴重な天然資源でございますが、ダイバーしか見られないこと、あるいは、PRが足りないためか、あまり知られていないようでございます。従いまして、牟岐町の、また、徳島県の貴重な観光資源をこれからも末永く守っていくためにも、交流人口増加のためにも全国的にもPR効果の高いと思われる千年サンゴの日の制定は非常に良い案ではないかと思っております。従いまして、

今後、千年サンゴと活きる町づくり協議会において協議を開始するとともに、適切な日の選定やその日の行事などについて、議員の皆さまにもご相談してまいりたいと考えております。以上でございます。

杣富議長 横尾議員。

横尾議員 千年サンゴの日の制定については、協議会で検討されていけたらいいと思いますし、是非、制定をしていただいてイベント等で周知をお願いしたいと思います。沖縄の方ではサンゴの日、3月5日にはいろんな県内各地でイベントが組まれているそうです。それと、活性化センターが移行中であって、千年サンゴの里も閉鎖した中、牟岐町のホームページは、空き家情報とかは千年サンゴの里に飛んでいくというふうなあたりに加わっています。どうしても他町に比べて牟岐町は観光の情報発信が少なく非常に見劣っています。観光協会のホームページもありませんので、そういう面では実際にいかにして情報を発信していくか、これからも検討してもらいたいと思います。また、移住定住については財源の確保等とか難しいところがあると思いますが、空き家をもっと一度調べておりますので、貸しても良いという家が1軒でも2軒でも増えて情報発信して滞在してもらえようような施策を是非取り組んでいただきたいと思います。以上で私の質問を終わります。